くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

エコシティ志木通信

6月1日（No.54・シトシトぴっちゃん号）

2009 * 6月

NPO法人エコシティ志木
代表理事　天田 眞
〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108
http://www.cc.e-mansion.com/~eco/

写真：山崎 光久

勝手にレッドデータ of 志木（40）

ツリフネソウ

名前の由来は、花が釣り下がって咲いている姿を、生花で使う釣舟（舟形をした花器でつるして使う）にたとえたものだそうです。湿ったところに育ち、高さは50〜80cmで、８〜10月にかけて、長さ３〜４cmの紅紫色の花を咲かせます。

狭山丘陵では多くの場所で見られ、珍しい花ではありませんが、志木市ではいろは親水公園の斜面林下でしか私は見ていません。

（山崎 光久）

エコシティ志木 2008年度の報告と2009年度の予定

代表理事　天田 眞

エコシティ志木 第７回（2009年度）総会は5月17日（日）に開催され、2008年度の事業報告・決算や2009年度の事業計画・予算が承認されました。また、まちづくり部会と福祉部会を統合し、自然環境に関わる活動を「水と緑部会」で、その他の活動を「まちづくり部会」で行うことになりました。活動実態と必ずしも合っていない部会制度のあり方は次期総会までに再検討することとします。

●2008年度の主な活動

◆環境、施設の保全・管理及び創出事業

①里山の手入れ（いろは親水公園こもれびのこみち斜面林の清掃、下刈等）

②外来植物駆除作戦（柳瀬川でオオブタクサ・アレチウリの徹底抜き取り）

◆調査、研究事業

①柳瀬川・野鳥&川の生きものウォッチング（野鳥調査と魚類・水生生物調査、水質調査、ごみ拾い等）

②身近な川の一斉調査（宗岡中科学部と市内８ヵ所の河川水や湧水を調査）

③埼玉県内一斉ガンカモ調査（柳瀬川を担当）

◆観察会及び学習・教育事業

①こどもとおとなの自然塾（春の野草、夏の魚、秋の鳴く虫、冬の渡り鳥の観察会）

②小学校等への講師派遣（総合学習・ヤゴ救出・クラブ、志木小ビオトープの手入れ）

③ボランティア・NPO活動体験者受け入れ

④「いろはふれあい祭り」「志木市民まつり」への参加

◆出版、広報事業

①「エコシティ志木通信」「イベントカレンダー」の発行（年４回発行）

②ホームページ管理（エコシティ志木のHP）

③活動紹介展示（催事でのパネル展示等）

◆エコツアー事業（河童のつづらの活動）

①お宝発見ツアー「新河岸川ぶらり散歩」（２回に分けて志木から川越の東照宮まで）

②お宝マップづくり（志木ぶらり散歩マップとして３月に3,000部発行）

②ホームページ運営（河童のつづらのHP）

以上の中で、こもれびのこみち斜面林の手入れ作業は、志木市が昨年４月に制定した公園美化活動会制度を適用して新たに取り組みを始めました。

外来植物駆除作戦は長年取り組んできたテーマですが、回数を増やし徹底して取り組んだ結果、志木大橋から高橋までのほぼ全域で大きな成果を上げることができました。

お宝マップづくりは05年度から懸案になっていたものですが、サイサン環境保全基金の助成金で完成することが出来ました。現在各方面に配布中ですが、わかりやすく親しみやすい、今までになかったマップとの評価をいただいています。

●2009年度の主な活動予定

前年度の事業をほぼ継続していきますが、重点活動や新規の活動は次のとおりです。

① こもれびのこみち斜面林での活動の本格化、合わせて隣接の新河岸川右岸河川敷の清掃や外来植物の駆除にも取り組みます。

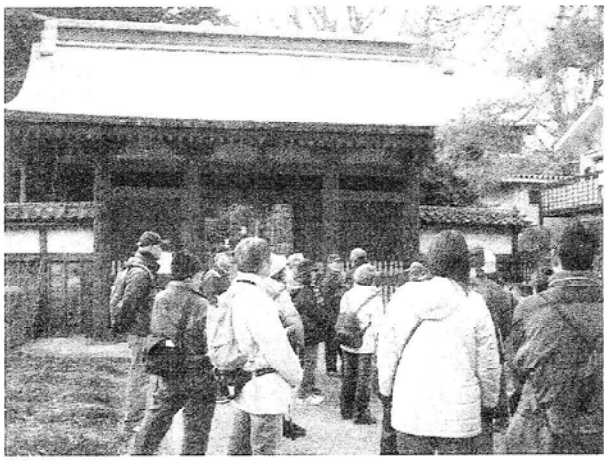
② 外来植物の駆除は柳瀬川河川敷の志木大橋～高橋間のオオブタクサとアレチウリの徹底除去に取り組み、成果の定着を図ります。

③ 新規の事業として水塚などの聞き取り調査を実施します。これは生活協同組合ドゥコープから助成をいただき、宗岡地域に多数残る水塚についての聞き取りを中心に惣囲堤等も含めた治水遺構を調査するもので、教育委員会等の各方面の協力を仰ぎながら、当会員に加え一般から公募したスタッフで調査を行う計画です。この事業を通して、水に関わる文化を軸に展開してきた「志木まるごと博物館」の認知・定着を図るとともに、将来の治水・まちづくりにも活かしていきたいと考えています。

3/1（日） 新河岸川をぶらり散歩（第2回）

3月1日（日）9時30分～3時30分　参加者31名

新河岸川を志木から源流まで歩こうとの企画の第2回で、ふじみ野市の福岡河岸跡（養老橋）から川越市の仙波東照宮まで、舟運や治水の歴史を訪ねながら、旧河川やかつて新河岸川の源流であった九十川の旧河川も含めて歩きました。



コースは、福岡河岸跡→古市場河岸跡→新河岸川旧河川→寺尾調節池（1998年の水害を契機に2002年に竣工）→寺尾河岸跡→日枝神社・新河岸跡（最も大きな河岸場があった場所）→牛子河岸跡→九十川旧河川（新河岸川の源流であった伊佐沼からの流れ）→旧牛子堰跡（1913年竣工の花崗岩製の門柱が残る）→現九十川→新河岸川旭橋に戻る→厳島神社・扇河岸跡→仙波河岸跡（最も上流で明治初期に開設された河岸場で現在は仙波河岸史跡公園）→昭和になって開削された新河岸川→中院→仙波東照宮（1638年の焼失後の再建資材を運んだのが舟運の始まり）→隣の喜多院で解散

前回と併せて、志木より上流の全ての河岸場跡と現存する全ての旧河川を歩きました。次回は川越の旧市街地を囲むように流れる部分から上流の旧赤間川方面を歩く予定です。（天田 眞）

4/24（日） 春の野草を見てみよう
こどもとおとなの自然塾（第1回）

観察日当日は穏やかな良い天気に恵まれました。

ただ、前日の大雨で足元が悪く、河川敷へ下りるコースは変更して、土手の上を歩き、比較的足元が良かった水谷たんぼを中心に２時間半ほど観察をしました。

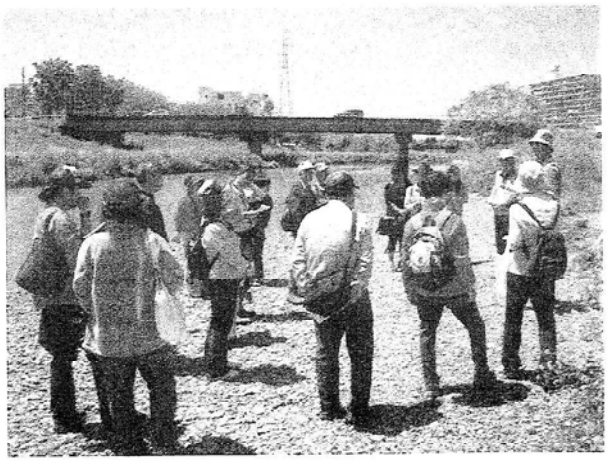
午前９時に柳瀬川サミット前に集まったのは総勢２１名（うちこども２名）でした。志木市立教育サポートセンター磯所長の挨拶の後、早速３グループに分かれて観察を開始しました。

「ノミノフスマ」や「キュウリグサ」など小さな野草にもそれぞれ名前があり、花の名前の由来や特徴を興味深く聞きました。

セブンイレブン裏の柳瀬川土手では、一株の「カントウタンポポ」が昨年に続き観察されたほか、今年は久しぶりに「セリバヒエンソウ」や「ヤセウツボ」も見ることが出来ました。

観察された野草は「ムラサキサギゴケ」や「カラスノエンドウ」など６７種類（昨年５４種類）でした。

今年の柳瀬川の河川敷は「セイヨウカラシナ」が立派に育ち、富士見橋から見る上流・下流の景観は素晴らしいものでした。これは、昨年何度も行った大型外来植物駆除の効果に加え、８月の大雨で「アレチウリ」や「オオブタクサ」が全滅し、セイヨウカラシナの発芽が順調だった事によると推測されます。　（山崎 光久）



5/3（日） 大型外来植物の駆除

柳瀬川河川敷に繁茂する**特定外来生物・アレチウリ**と**要注意外来生物・オオブタクサ**の抜き取りを昨年から本格的に始めました。

本年度第１回目の今回は、志木大橋から高橋までの間のアレチウリとオオブタクサの生育状況の調査と一部抜き取りを目的としたものでした。５月の連休中でしたが、快晴の中メンバー６人で早速調査を開始しました。

調査ですぐに気がついたのですが、今年はセイヨウカラシナの生育が近年になく旺盛で、アレチウリもオオブタクサもほとんど見られないことでした。昨年の同じ時期にはサミット裏のわずか150メートルほどの間で約7000本以上を抜き取りました。

セイヨウカラシナの生育が順調だったのはいくつかの理由があると思いますが、一つは昨年何回か行った大型外来植物の抜き取りの効果で、秋にアレチウリやオオブタクサが実をつけなかったこと、また８月の大雨で一度はアレチウリやオオブタクサが全滅した事が大きいと思います。そのため、セイヨウカラシナの発芽が早くから順調で、セイヨウカラシナの日陰になるためアレチウリやオオブタクサの発芽が妨げられているのだと考えられます。

ただ、いつまでもこの状態が続くとは考えにくく、やがてセイヨウカラシナが枯れるとアレチウリやオオブタクサの勢いが増して、駆除を怠れば一面アレチウリで覆われることになるでしょう。　（山崎 光久）

5/10（日） 志木おやこ劇場「子どもまつり」に参加

今年で第16回となる志木おやこ劇場主催の子どもまつりに「柳瀬川・水族館」を出展してきました。このお祭りは、子どもたちがとても元気で楽しいイベントです。

子どもまつりで「柳瀬川・水族館」は恒例となっていますが、初めての親御さん・祖父母さんにも多く来ていただき、身近な自然に目を向けて見直すきっかけになってもらえたことと思います。

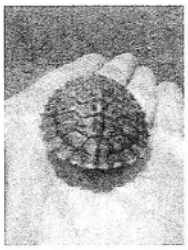
今回出演した生き物のうちミシシッピーアカミミガメ（ミドリガメ）は、ペットショップや縁日の屋台などで売られていて、飼育は容易ですが、大型に成長し攻撃的になるため、飽きられたり持て余されたりしやすく、大量の遺棄が続いているのが現状で、志木市周辺でも野生化してしまったものが多く見られます。環境省の要注意外来生物の他、ＩＵＣＮ（国際自然保護連合）の「世界の侵略的外来種ワースト100」、日本生態学会の「日本の侵略的外来種ワースト100」にも選定されています。　（伊藤 智明）

＜今回出演した水辺の生き物たち＞

※志木大橋周辺の柳瀬川で捕りました。終了後、外来生物以外は柳瀬川へ戻しました。

・アユ・オイカワ・ボラ・ウキゴリ・ヌマチチブ・ドジョウ・ハグロトンボのヤゴ・テナガエビ・ヌマエビ類

【外来生物】アメリカザリガニ・ミシシッピーアカミミガメ（ミドリガメ）

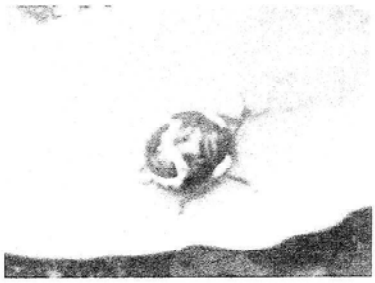


←ミシシッピーアカミミガメ

昆虫野鳥野草雑記

山崎 光久

昆虫
アカスジキンカメムシ



↑天田さんから成虫の写真をいただきました

当会会員でもある（財）埼玉県生態系保護協会志木支部の岩上弘さんが、３月のある日近くの家で不思議な昆虫に出合いました。名前も分らず岩上さんが生態系本部に照会したところ次のような回答を得ました。

「志木市内の旧農家の玄関先で撮られた写真はアカスジキンカメムシというカメムシの幼虫です。成虫は５月～8月頃出現し、光沢のある金緑色に赤色の紋のある大変美しいカメムシです。（幼虫は地味ですが・・・）。この時期の幼虫は主に地上の落ち葉の下に潜って越冬することが知られています。

生息環境は主に山地の樹林で、コナラ、フジ、ミズキ、キブシといった落葉広葉樹やヒサカキ、アオキなどの常緑広葉樹、スギ、ヒノキなその針葉樹から発見されることが多いようです。特に珍しい種ではありませんが、目にする機会はわりと少ない気がします。」

成虫はとても美しいカメムシのようで、ぜひ見てみたいものです。

野鳥
セグロカモメ

３月の第三日曜日、柳瀬川ウォッチングで歩いている時に、セグロカモメ２羽が川の中で死んでいるコイを巡って争っていました。

結構激しい争いで、１羽がもう１羽の頸に噛み付き押し倒そうとします。しばらく争って結局１羽は退散してしまいました。

セグロカモメは東京湾から荒川沿いにのぼってくるのでしょうが、柳瀬川では毎年２～３羽が観察され、高橋の外灯の上が羽を休める定位置のようになっています。

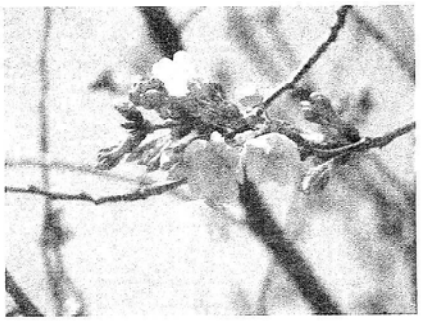
野草
キジムシロ

志木小学校屋上ビオトープで「キジムシロ」の花が咲いていました。

「キジムシロ」の名前の由来は、丸く広がった株をキジの座るムシロに見立ててつけられたといわれています。里山にふつうに見られる高さ５～30cmのバラ科の多年草で４～５月に直径１～1.5cmの黄色い花を咲かせます。

志木小学校の屋上ビオトープは平成１５年３月に竣工し６年が経過しましたが、先日の調査では草花が58種類、樹木が57種類観察されました。秋に見られる草花と見られなくなったものも含めると草花は144種類、樹木は76種類で、狭いところですが非常に多様性に富んでいます。ただ最近は乾燥化が進んで、メリケンカルカヤやチガヤなどのイネ科の植物が増えて継続的な手入れが必要になっています。

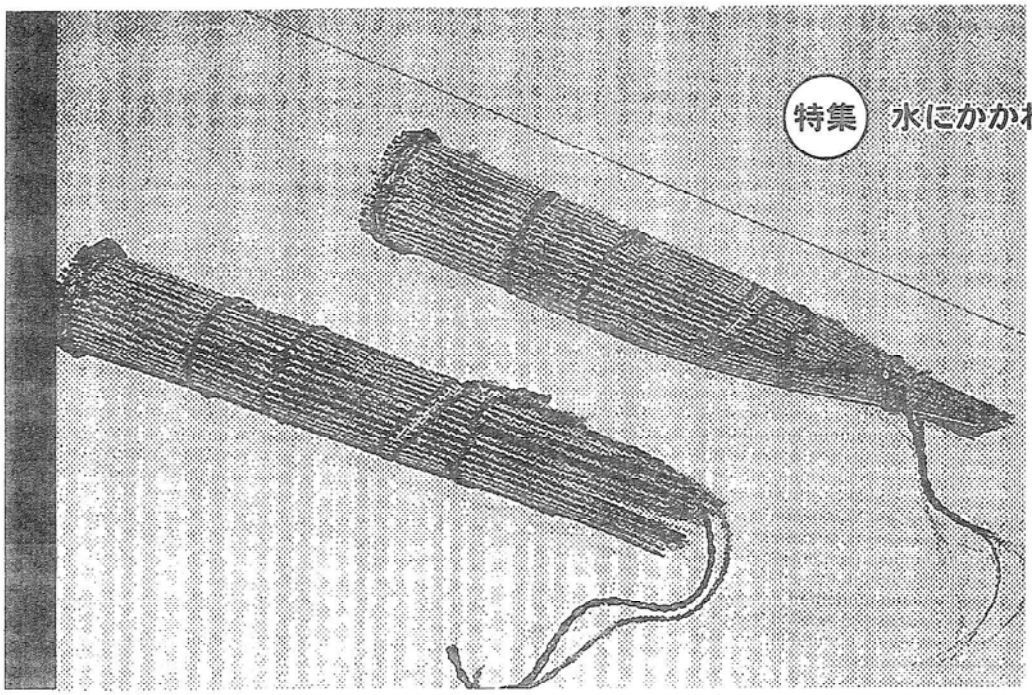
花
サクラ



今年のサクラの開花日は3月２１日でした。

私が住む志木ニュータウンの柳瀬川沿いのサクラも3月21日に開花しました。開花は例年より５日ほど早かったようですが、その後寒さが続き満開は４月の３日頃でした。柳瀬川のサミット裏の土手には河川敷へ下りる階段が２箇所設けられ、４月４日（土）、５日（日）には大勢の家族連れやグループで賑わっていました。満開の後は気温の上昇も早く、風が強かったこともあり一気に散ってしまいました。

チョウショウインハタザクラも例年より開花が早く、散るのも早かったようです。



↑ どじょう筌

志木近郊の川漁史について

NPO法人エコシティ志木事務局長 伊藤 智明

かつての川漁のようすを富士見市の市史資料から調べてみました。

資料によると、昭和５年（1930年）の漁獲状況は〈表-1〉のとおりです。なお、昭和31年(1956年)に鶴瀬村・水谷村・南畑村が合併し、富士見村(現・富士見市)となっています。

とれた魚は、毎朝、鶴瀬・南畑・福岡の川魚商が買いに来て、志木・川越・所沢などの町場で家回りして売って歩いたそうです。ウナギは、大きいものは脂が濃いため安く、小さいものも身の柔らかいため安かったそうですが、ナマズやコイは大きいほど高く売れたそうです。

川魚の料理は、コイはこいこくやあらい、ウナギは蒲焼き、フナは甘露煮、雑魚は醤油煮や唐揚げ、ハヤは塩焼き、ドジョウは柳川や豆腐と一緒に煮たそうです。

漁をするときは「アタラナイから梅干しを食べてはいけない」や「東風のときは魚がとれない」、「餌で魚を騙すハエナワやカエツケなどに魚がかからないときは近いうちに雨が降る」などの禁忌や言い伝えもあったそうです。

また、魚のとり方も〈表-2〉のように多様でした。

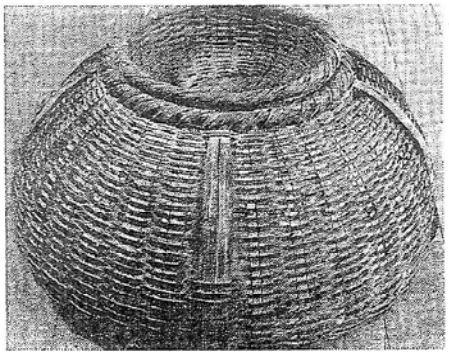
新河岸川での川漁は、昭和40年(1965)頃から上流の開発により水質が悪化し、漁が出来なくなったそうですが、荒川では現在も川漁が行われています。もし川漁をされたい方は、埼玉県 農林部 生産振興課 内水面漁場管理委員会・水産担当や埼玉南部漁業協同組合にお問い合わせください。

【引用文献】『富士見市史 資料編７ 民俗』（平成元年３月 富士見市）

〈表-1〉富士見市における昭和５年(1930)の漁獲状況（『富士見市史 資料編７ 民俗』より作成）

	鶴瀬村（新河岸川）	水谷村（新河岸川）	南畑村（荒川・新河岸川）
コイ	２５貫	１０貫	１００貫
フナ	２０貫	５０貫	３００貫
ウナギ	１５貫	１０貫	１００貫
ナマズ	—	３５貫	５０貫
ハヤ	—	１０貫	—
ドジョウ	—	５０貫	１，５００貫
雑魚	—	６０貫	—
本業者	—	１人	４人
副業者	３人	２人	２１人
遊業者	—	３２人	２００人

※１ 一貫＝３．７５キログラム
※２ その他の小河川ではドジョウ漁が中心。



← ビク

〈表-1〉漁法のいろいろ

（「富士見市史 資料編７ 民俗」より作成）＞

網漁法	投網	一番多く行われた漁。大きい目のものはコイ、小さい目のものはタナゴ・フナなどをとるのに使う。網を上手に投げることができれば誰でも出来た。
	待ち網（モジリ）	袋状の網の口を二本の竹の棒で開いて、川に横に寝かせるようにして行う。魚はなんでもとれたので、一番おもしろい漁だったという。誰でも出来た。
	四ツ手網（天蓋）	竹四本を十字型にして、網の各隅に固定した網を使う。魚はなんでもとれた。季節は春から夏までの間。専業は大きい網を、それ以外は小さい網を使った。
	地引き網	15 人～20 人程で上流から網を引いて、下流の網に魚をかける漁。川底に障害物があって大変な作業だったが、漁の収穫は多かった。魚はコイが中心。季節は夏。
	掛け網・タテボシ	荒川の潮の干満がある場所で、潮が引いた時に 200～300m の網を泥に埋めておき、潮が満ちたときに網を上げる。魚はコイ・ボラ・マルタ・ウグイ（ハヤ）。季節は春から夏にかけて行う。
	刺し網	川の流れに直角に網を仕掛けておいて、水面を竹で叩いて魚を追い網にかける。魚はコイ・フナが中心。季節は秋から春までの間。鑑札が必要だった漁。
	ナタ網	用水堀の幅いっぱいに網を張っておき、上流から竹に鉄の輪をつけたもので音をたて、ドジョウを網にかけてとる。土用のころに水田の水を落とす時にやる。誰でも出来た。
針漁法	ハエナワ	60～70 本の針がついている一本 200m の網を仕掛けておく。餌はトンボやザリガニの小さいものを使う。魚はなんでもとれた。季節は春から夏にかけて行う。専業だけがやっていた。
	ミサキ	今は無くなった漁。誰でも出来、魚はなんでもとれたという。
	タテバリ（ジゴク）	竹の棒に針をつけたものを針が水面に入るくらいにして、竹を斜めに刺しておく漁。一回に 500～700 本を置く。餌はトンボやザリガニの小さいものを使う。魚はウナギ・ナマズが中心。季節は夏から秋にかけて行う。誰でも出来た。
	ポカン釣り（トビ釣り）	先がよくしなる竹の先に針と生きたままのドジョウやカエルをつけて、水面を泳がせると魚が飛び付いた。誰でも出来た。
	穴釣り	水のきれいな場所で、ナマズやウナギなどが入っている穴に餌のついた針を下げておくと魚が喰いついた。季節は冬。専業だけがやっていた。
雑漁法	ウナギ筌	筌は直径 20cm、長さ 1m の大きいもの。餌はサナギと麦粉を練ったもの。専業だけがやっていた。
	ドジョウ筌	筌は直径 10cm、長さ 50cm の大きいもの。餌はタニシや麦とサナギをこねて団子にしたものやセンキュウを使った天秤棒に 50～60 個担いで、夕方に雨がたくさん降った時に水田の水口に置いておいた。誰でも出来た。
	冬ズミ・竹ズッポ	長さ 90cm、直径 10cm の節を抜いて先端をふさいだ孟宗竹を川の底に沈めておいて、三日から一週間毎にあげる。上流と下流に交互に 100～150 本置く。ウナギ・ナマズをとる漁。専業だけがやっていた。
	ウロサガシ	魚のいる穴を探して手に入れて魚をつかまえる。穴は二つ以上あって、魚がいる穴を探すことが大変だったり、深い穴もあって、収穫は少なかった。専業だけがやっていた。
	ヤスづき・モリづき	冬に魚が岸辺の崖下に入るので、ヤスやモリでついてとった。ナマズ・フナ・コイをとる漁。遊びではいい収穫にならなかった。
	ゴキ	割ってさいた竹をシュロ縄で編んだものを川に沈めておく。餌は大麦を煮て団子にしたものを入れておく。
	カエツキ	魚のいそうな場所に餌を夜撒いておき、数時間後に静かに舟で近づいて投網をかぶせる漁。専業だけがやっていた。
	ウケ網	増水した時に長さ 7～8m、直径 1m の網を水門に置いておき、水が減ると大きなコイやナマズが入っていた。専業だけがやっていた。
	引っ掛け・ギャンブル	三本針をサオの先に糸で吊るし、産卵期に浅瀬に上がってきた魚の前に落として魚を引っ掛ける。誰でも出来た。
	カイドリ	水路で魚のいそうな場所の水を多人数でかいとって魚をとる。また、水田の一部を深く掘っておいて、一冬置いておくと魚がたまるので、これを正月の前に水をかいだして魚をとってコブ巻きにした。これは一人でやる。

金子秀樹の

農業日記〈2〉

今回は、「くろ付け」から「田植え」までを書いてみたいと思います。

まず、**くろ付け**ですが、最近のくろ付けは機械で行います。今年は、くろ付け時期（2月中～3月中）に雨の日が多かったために約１ヶ月遅れの3月中～4月初めにかけて行いました。

次に、**種籾の選別・消毒**ですが、種籾の選別は昨年取っておいた種籾を塩水で選別します。

かなり濃い塩水を作り、その中に種籾を入れ、浮いた籾は捨て沈んだ籾を水洗いして種籾として使います。我が家も親の代には行っていましたが、耕作面積も減りましたので現在はすべて農協から種籾を購入しています。大量に作っている農家は、塩水選別を行う所もあります。

次に選別した種籾を消毒します。以前は、農薬による消毒が主流でしたが、最近は、温湯消毒が主流となっております。60℃のお湯の中に種籾を10分入れ、その後冷水に10分程度つけて消毒は終了します。温湯消毒は、農協で行うことが出来るのでほとんどの農家の方が利用しています。

なお、**農薬**ですが、最近の稲作にはほとんど使いません。そのため、稲の株間を広くしたりして、風の通りをよくして病害虫の発生を抑えています。

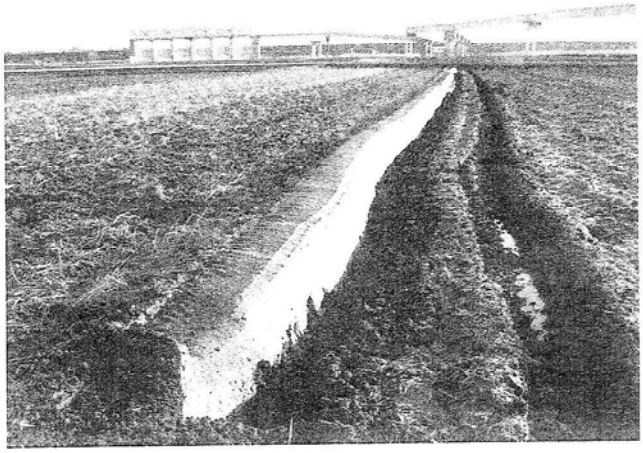
次は、**種まき・苗床**ですが、最近の田植えは全て機械植えですので、苗床は田んぼには作らず、畑にビニールシートを張り、その中に種籾を入れた箱を入れ、水を張り保温用のビニールシートを張って終わりです。ただし、苗床を作る場所は、平らで固くなければいけません。我が家の今年の苗床場所は、少し凹凸が出来たこともあり、何枚かの苗床が失敗しました。

種まきは、均一に種を蒔く為に機械で種を蒔きます。種まきの時期は田植えをいつするかで決まります。このあたりの田植えは5月の連休に行いますので、苗の生育に30日程度かかるため種まきは大体３月末の週末（今年は、3月28・29日）に行います。

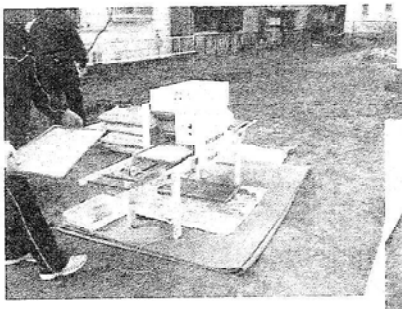
４月になると忙しくなります。

今年は、4月11日に水汲みポンプが動き出すと農家の皆さんが一斉に田んぼに水を入れ、**荒代**(あらじろ：軽く耕作し土と水をなじませる)を行い、くろの補修等を行います。その後、田植えの3～4日前に代かきを行い、田植えとなります。

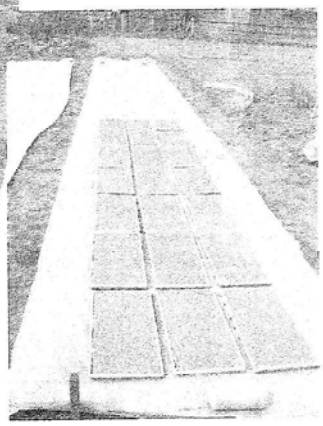
今年の**田植え**のピークは、2月29日～5月2日でした。今年は、稲作を止める方が数人おられ、未耕作地も増えました。農家の高齢化が進んでいますし米価も下がっているので、仕方が無いことかも知れません。



くろ付け後

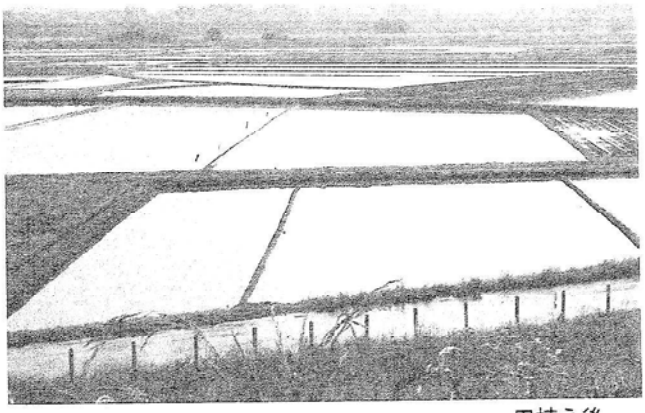


我が家の種まき



我が家の苗床

代かき



田植え後

生き物情報は　Tel/Fax 048-471-4275　Email：qwj11624@nifty.com（毛利）へ
ホームページ⇒http://homepage3.nifty.com/moh/kappa/sizen-info.html

《鳥類》

ツバメ（1）→4/11（土）西原斜面林で【毛利将範】

コジュリン（1）→4/19（日）水谷田んぼで　柳瀬川ウオッチング

タシギ（6）・コガモ（2）→4/19（日）水谷田んぼで　柳瀬川ウオッチング

オオヨシキリ→4/26（日）水谷たんぼ　鳴き声を聞きました【毛利将範】

ハシブトガラス→5/27（水）新座市（志木駅南口）で、ツバメ2羽に追われていました。ツバメは「キチッ！　キチッ！」という激しい警戒音を発しながらカラスを果敢に攻撃していました。いつも気にかけていたビルの片隅の巣から生後1週間弱、羽毛がポツポツと生えているヒナが見えたので、おそらくそのうちの1羽をカラスがさらったのでしょう【毛利将範】

《魚類》

アユ→4/19（日）富士見橋の上から目視で。10cm弱の大きさのものが群れをつくっていた【毛利将範】

ボラ→4/19（日）富士見橋の上から目視で。10～13cmの大きさのものが群れで【毛利将範】

《ほ乳類》

アブラコウモリ（1）→4/11（土）幸町のマンションの駐車場で【毛利将範】

ハクビシン（1）→5/4（火）夜10時すぎ　志木二中のフェンスの内側を歩いていて、プールの下に入っていった【天田いづみ】

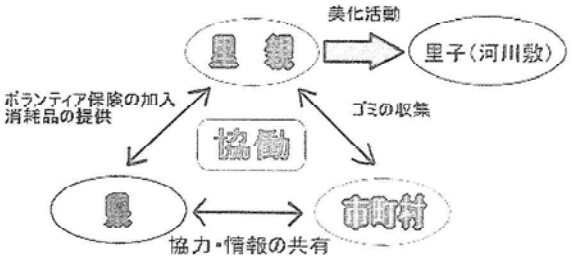
環境 ひとくちメモ（13） 伊藤 智明

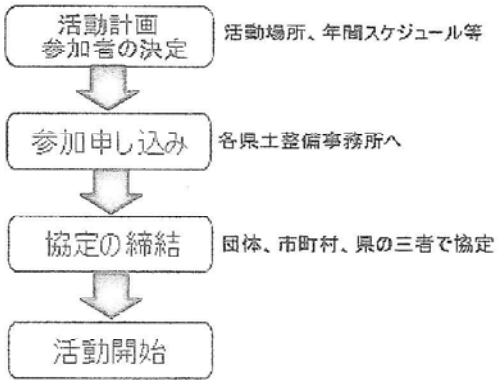
水辺の里親制度

埼玉県では、市町村と協力して、河川における自治会や愛護団体等によるボランティアでの美化活動を支援し、河川愛護意識の一層の高揚と良好な河川環境の維持・保全に資することを目的として平成17年度から全ての埼玉県管理河川で募集している制度です。

この制度の対象は、埼玉県管理の一級河川100m以上を含む河川の美化活動で、メンバーが10人以上の団体（地域住民、河川愛護団体、ＮＰＯ、自治会、町内会、小・中学校、高校、老人会、地元企業など、活動回数は問わない）です。行政機関は、埼玉県は軍手・ビニール袋・タオルの支給・ボランティア保険の加入、市町村は収集したゴミの処分の支援をそれぞれ行います。

エコシティ志木では、志木中学校付近の柳瀬川右岸（400m）といろは親水公園こもれびのこみち付近の新河岸川右岸（400m）の二ヶ所を埼玉県朝霞県土整備事務所と協定締結をしています。





（出典図表及び詳細）
埼玉県 県土整備部 河川砂防課「水辺の里親制度」ホームページ
http://www.pref.saitama.lg.jp/A08/BG00/kasen/koumoku/kasen16.html

☆会員状況

2009年度更新済み会員（5/29現在）
個人正会員　31
団体正会員　2
賛助会員　　2

カンパをありがとうございました
〈金銭〉
上田勲　栗林菊夫　西川武重郎
武藤邦昭　毛利将範　望月仁
山崎光久　吉田孝
〈物品〉
伊藤智明

★本会の財政基盤は、会員の方の年会費が頼りです。
★今年度の継続更新をよろしくお願いします。
（宛名シールに会費の有効期間が書いてありますので、チェックしてください）

■当会の団体正会員

志木おやこ劇場
生活クラブ生協志木支部

■当会が参加している、または主な協力団体

いろは遊学館利用者の会
グループぽんぽこ
(財)埼玉県生態系保護協会志木支部
志木おやこ劇場
志木市コミュニティー協議会
市内小中学校
新河岸川水系水環境連絡会
柳瀬川流域ネットワーク
新河岸川流域川づくり連絡会（国土交通省）

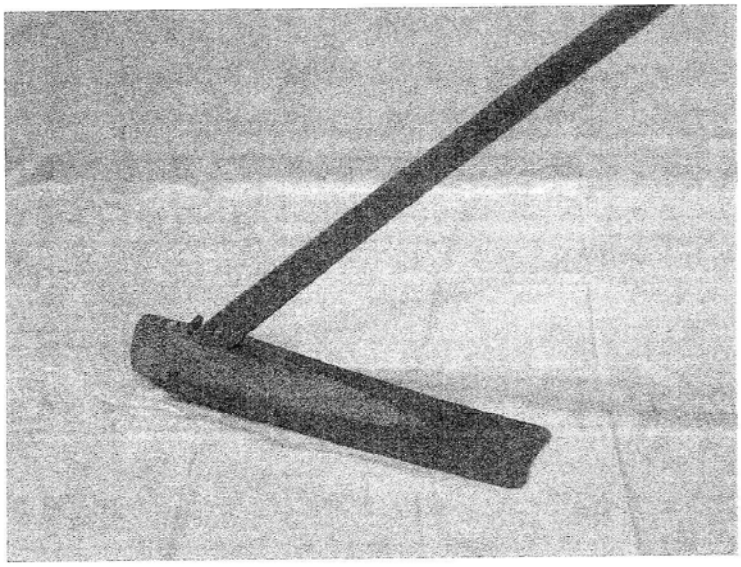
情報満載！当会のホームページ

公式ホームページ
http://www.cc.e-mansion.com/~eco/

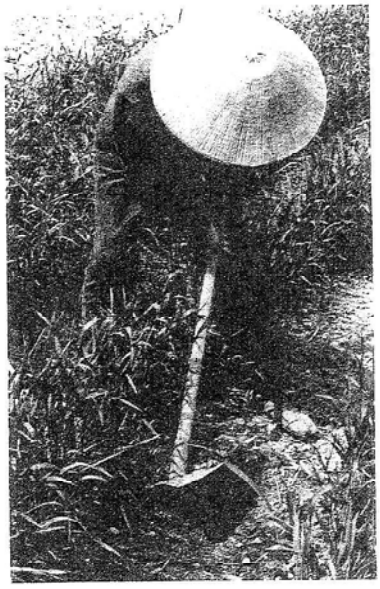
志木まるごと博物館「河童のつづら」
http://homepage3.nifty.com/moh/kappa/

志木市立郷土資料館の農具 その7

サクキリグワ（クワ）



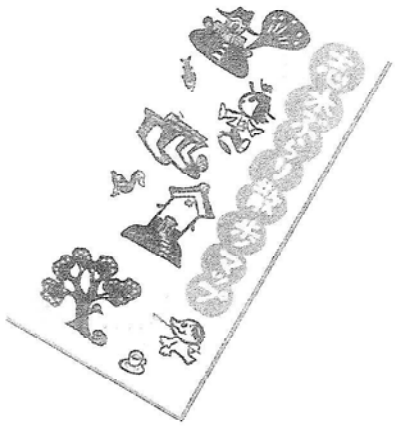
サクキリグワは、地作り、育成のため畑を耕し、土を軟らかくするハタケウナイやサクキリ（中耕）に使用した。サクキリグワには、刃（鉄の部分）とフロ部（木の部分）の長い「ナガズル」と短い「ハングワ」とがあり、当館のものは柄長153cm、刃長・フロ45cm、刃幅11cmのナガズルがある。



サクキリ（秩父市 昭和59年）『埼玉の民俗写真集』平成3年　埼玉県発行より

【執筆・撮影協力】
志木市立郷土資料館
〒353-0002中宗岡3-1-2　☎ 048-471-0573　月曜日休館

「志木ぶらり散歩マップ」を配付しています



05年度からの懸案だった「お宝マップ」が、昨年度サイサン環境保全基金からの助成を得、**『志木ぶらり散歩マップ』**として完成し、3,000部印刷・発行することができ、念願がかないました。

志木の際だった特徴である治水遺構などの「水」を切り口にしたものは今までほとんど発表されてこなかっただけに非常に貴重なマップとなりました。

このマップは、今年度以降に予定している自然観察会・学校への出前授業など通常の活動に加え、「水塚聞き取り調査」「まちかど展示」などの志木まるごと博物館化計画事業推進にあたり、有効に活用したいと考えています。

マップは市役所生涯学習課の窓口などの他、旧村山快哉堂や郷土資料館などでも配布しています。また、配布用にまとまってほしい方は天田代表までお申し出ください。残部があれば対応いたします。

2009年度 役員

理　事	天田 眞	再任	代表理事
	飯塚 伸夫	再任	水と緑部会長
	伊藤 智明	再任	事務局長
	金子 秀樹	再任	
	小島 敏文	再任	
	望月 仁	新任	
	三浦 真奈子	再任	
	毛利 将範	再任	副代表理事
	山口 美智江	再任	副代表理事／まちづくり部会長
	山崎 光久	再任	
監　事	宇津木 美恵子	再任	
	吉田　孝	再任	

2009年度 予算　（2009年4月1日～2010年3月31日）

特定非営利事業に係る事業（今年度の収益事業計画はありません）

●収入　（単位：円）

科　目	予算額	備　考
1 会費等収入	152,000	
個人会費	132,000	基本会員数　個人54　家族2
団体会費	10,000	団体2
賛助会費	10,000	賛助2
2 事業収入	121,000	
保全・管理・創出	40,000	公園美化活動報奨金
調査・研究	6,000	参加費等
観察会・学習・教育	55,000	参加費・謝金等
出版・広報	0	
エコツアー	20,000	参加費等
提言	0	
3 助成金収入	460,000	
志木市	0	
その他	460,000	ドゥコープ市民活動支援金
4 雑収入	30,000	
寄付金等	30,000	
その他	0	
5 収益事業より繰り入れ	0	
当期収入合計	763,000	
前期繰越金	415,183	
収入合計	1,178,183	

●支出

1 事業費	598,000	
保全・管理・創出	29,000	斜面林管理、外来植物抜取等
調査・研究	4,000	柳瀬側ウオッチング等
観察会・学習・教育	23,000	自然塾・総合学習等
出版・広報	51,000	通信作成、送料等
エコツアー	505,000	水塚調査等
提言	0	
保険料	6,000	年間保険料負担金
2 管理費	165,000	
租税公課	0	
旅費交通費	2,000	
通信運搬費	3,000	エコシティ志木通信を除く
消耗品費	1,000	
給与手当	0	
事務局経費	140,000	事務局分散運営費
印刷費	2,000	エコシティ志木通信を除く
参加団体会費	13,000	4団体分
会議費	1,500	有料会場費
雑費	2,500	
3 予備費	0	
当期支出合計	763,000	
当期収支差額	0	
次期繰越金	415,183	

水塚・樋門などのボランティア調査員を募集します

志木市宗岡地区に残る江戸時代からの堤防や水塚(みづか)、樋門(ひもん)などを調査するボランティア調査員を募集します。

おもに聞き取りを中心とした調査で、知識や経験は不要です。

広く一般の方から公募しています。会員の方もぜひご一緒に楽しみながら志木の歴史を調べませんか。

【期間】平成23年3月まで約2年間
【調査日】月１回程度、おもに第１日曜日を予定
【報酬】調査にかかる経費は支給されますが無報酬です
【定員】15名
＊ 応募ご希望の方は６月25日までに電話連絡のうえ、第１回説明会及び講演会にご出席ください。

この事業の09年度分は、生活協同組合ドゥコープからの支援金をいただいて実施します。上の写真は、助成金目録公布式の様子を伝えるドゥコープ広報誌の表紙です。天田代表理事がしっかりと受け取っていますよ。

【第１回説明会及び講演会】
日時：7月5日（日）午後１：30
会場：いろは遊学館２Ｆ視聴覚室
講演：「志木の惣囲堤と水塚・樋門について」（仮題）
（講師＝神山健吉氏：志木市文化財保護審議会会長）

【連絡先】048-471-1338（天田）
【主催】NPO法人エコシティ志木
【共催】(財)埼玉県生態系保護協会志木支部
【助成】生活協同組合ドゥコープ
【協力】志木市教育委員会生涯学習課

編集後記

◇「志木ぶらり散歩マップ」は皆さまのお手元に届いたでしょうか。今年度は、このマップなども活用しながら宗岡のまちを訪ね歩きます。
◇02年から始めた「志木まるごと博物館」の活動もやっと一歩前進です。これをきっかけにいろいろな方との連係・共同が実現するといいですね。　（ふくろう）

エコシティ志木通信
第54号・2009年６月１日
〈発行〉
NPO法人 エコシティ志木
〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108
電話/FAX 048-471-1338（天田眞）
URL http://www.cc.e-mansion.com/~eco/
E-mail eco-shiki@ff.e-mansion.com